

地域子育て支援拠点研修事業<香川開催>

《開催概要》

- 開催日 平成24年7月21日(土) 10:00~16:30
- 会場 香川大学幸町キャンパス
- 主催 財団法人こども未来財団
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会
香川県、高松市、香川大学教育学部
- 協力 NPO法人わははネット
- 参加者数 参加者数 179名
(男性 18名、女性 161名)
(行政 38名、NPO・任意団体 74名、その他団体 38名、その他 29名)



《プログラム》

- 主催者挨拶 安藤哲男さん 財団法人こども未来財団 常務理事
- 開催地挨拶 西平賢哉さん 香川県健康福祉部子育て支援課 課長



安藤 哲男さん



西平 賢哉さん

■プログラム1 基調講演

「地域子育て支援拠点に求められる親子への関わりとソーシャルワークな視点」

講師 山縣文治さん 関西大学 教授

地域子育て支援拠点が親子や自分達の抱える問題をソーシャルワークな視点で見直すことで、解決のヒントを導き出す具体例を挙げ、わかりやすくお話されました。どのような制度で解決していくか、問題と資源やサービスをつないでいくことがソーシャルワークであり、援助をする側が、問題の見方、資源やつなぎ方を変えたり、隠れた問題に気付く「援助観」が大切であること。問題の例を挙げ、解決は社会関係の円滑化・回復にあり、具体的なアイデアをたくさん持っているほうが良いソーシャルワーカーであると話されました。クモの巣を例に挙げ、良い機能をするネットワークとは、いろいろな機関と交流し、様々な見立てができ、情報共有をしっかりとすること。クモの巣のようにネバネバした人間くささが大事で、同時に行政や事務局に支柱となってもらって、支援側が頑張りすぎてつぶれないことも大切だとわかりました。見方も一般論ではなく、その人の主観から始めるのが大原則で、共感の大切さと難しさも感じました。また、ひろばの特徴は幼稚園・保育園に入るまでの約3年の関わりなので、次へとつなぐ連携の大切さを実感しました。



山縣 文治さん

■プログラム2 災害対策ガイド「備えの123」について

釘町千明さん NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会



子育てひろばの危機管理の知恵やこれまでの震災の経験談をもとにひろば全協が作成した子育てひろばのための災害対策ガイド「備えの123」に沿って説明がありました。

備え1として ひろばの中で～準備・点検と話し合い～

災害非常時の役割分担をどう行うのか。指示を出すのは誰か、スタッフ全員が揃っていなくても対応できる体制を作っておくほか、スタッフも被災することを忘れず、家族内で話しあっておくことが必要です。

備え2として ～避難訓練とマニュアル作り～

災害時、スタッフは慌てず落ち着いて行動することが肝心。日頃から様々な災害を想定した避難訓練を行い、それぞれのひろばで取るべき行動をマニュアルとして作成する。地震、火災、水害などの災害の種類に応じた訓練を開催するなど年間を通じた計画表を作成する。訓練の大切さを利用者さんにも理解してもらい一緒に行動する事で避難訓練の意義も共有しておくことが大切です。

備え3として ～連携と助け合い～

災害時の対応は、ひろばの中だけで判断せず、行政や地域としっかり連携を取ることが必要であり、地域や広域と助け合える繋がりを広く持ち、緊急時には日頃のネットワークを活かして助け合うことが復興の大事な足がかりにもなります。また、緊急時のひろばの対応については、利用者さんに周知する内容や方法を検討しておき、普段から防災の意識をもって貰う機会が大切です。

■プログラム3 基調報告 「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

講師 石田有介さん 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室



はじめに、地域子育て支援拠点事業の事業内容の確認と拠点事業に期待されていることについて説明がありました。そして、ひろば型「機能拡充」の積極的な活用を通して多様な子育て支援活動を実施し、子育て家庭へのよりきめ細やかな支援を目指すことができることや、当事者性を持っているスタッフが専門家との連携・協働を行うことの重要性が求められていること、また、子ども・子育て新システムの基本制度と社会保障・税の一体改革などについて説明がありました。

今回の法律改正で、子ども・子育て支援が優先的に取り組む事項である点について、子ども・子育て関連3法案の趣旨やポイントをまとめた資料を交えて説明がありました。一体改革によって安定的な財源のもとで運営ができること、地域のニーズに基づいた計画を策定できること、新たに拠点事業に「子育て支援コーディネーター」を置き、より地域に根差した子育て支援が細やかに実施できるよう国として財源確保を目指す意向である旨の説明がありました。

■プログラム4 分科会

<第1分科会> 「地域子育て支援拠点の役割とスタッフの関わり」

講師 橋本真紀さん 関西学院大学 准教授

前半は、子育て支援の事業が現在の法的位置付けを持った地域子育て支援拠点事業の形に至る経緯について講義があり、後半は、グループワークを通して支援者の役割について考えていきました。講義では、活動の指標「ガイドライン」の中から、主に「基本的な考え方」「支援者の役割」「受容と自己決定」について詳しく説明がありました。



橋本 真紀さん



その中でも重要なキーワードとして「子どもの最善の利益」については支援者として長期的・短期的な「利益」、いろいろな立場から見た「利益」を考えること、支援者が自分の価値観のみが唯一正しいものではないということを常に謙虚さを持って認識しておくことが必要であると説明いただきました。また、子どもに関する地域資源を広く捉え、人と人が繋がっていくことの大切さを改めて感じることができました。グループワークでは、

ガイドラインの「支援者の役割」で示されている5つの項目にそれらの前提となる「場をつくる」を加えた6つのグループに別れて、それぞれ実践していることをカードに書いて発表し合い、実践例を工夫別に分類していきました。作業をする中で、自分が日々関わっている拠点だけでなく他の拠点で実践されていることを知ることができ、活発な交流を図ることができました。



<第2分科会> 「居心地のいい支援拠点の環境づくりとは」

【コーディネーター】松本博雄さん 香川大学教育学部 准教授

【コーディネーター】常田美穂さん 香川子ども子育て研究所 所長

【事例報告】増田順子さん こぶし今里保育園 園長

【事例報告】太田広美さん NPO 法人わははネット



常田 美穂さん



松本 博雄さん

前半は事例報告をお聞きし、後半はグループワークを実施しました。事例報告の増田順子さんからは、「地域に愛される保育園になるため」に行ってきた地域の赤ちゃん訪問や公園での出前保育、お散歩保育などの活動についてお話がありました。その後、子育て支援センターを開設するまでの経緯、活動内容の報告があり「気付きを促す環境面の配慮」「様々な力を持っている利用者を尊敬する」など具体的にお話いただきました。



増田 順子さん



太田 広美さん

太田広美さんからは、わははひろば坂出で実践している環境設定をソフト面・ハード面に分けて報告いただきました。利用者と一緒に居心地のいい空間を作るためにイベントなどを通じて、自分達のひろばであることを実感してもらう。新規利用者への対応として、スタッフ・子ども・利用者で迎え入れるようにしていること。また、一人ひとりの個性を大切にするためにスタッフ間で意識共有を図り細かくつながっていく、「私の居場所」として、親も子もスタッフも共に成長し、ハートも共有できる居場所づくりを目指していることなどを報告いただきました。

グループワークでは、居心地のいい支援拠点の環境づくりについて大切なこと、事例報告を聞いて考えたことなどをそれぞれ話し合い発表しました。

常田先生からは、「子育て支援の大きな目的の一つに『親が親として成長できる場』の提供がある。今ある資源の中で何ができるか、どんな方向に進んでいけばよいのかを考える時、目的に立ち返れば手立てが見えてくる。『居心地がいい＝サービス』なのかと考えた時、何でもやってもらうより自分の居場所があり自分に関わって何かを変えていける、できたという手ごたえが感じられる場所が、居心地のいい場所なのではないか。親の背景や経歴・家庭の事情を頭の中に入れ、0～3歳の子どもの発達に基づいた対応ができれば説得力が増し、また発達の視点から見た時に環境も整理できるのではないか」というお話がありました。

松本先生からは「2つの事例の共通のキーワードは『信頼』。サービスという言葉が広く使われているが、子育てにおいて『サービス＝お金を払ってきちんとした製品が出てこない』と文句を言う関係』ではごくしゃくし、子どもにも親にも良い影響を生まない。『分かち合う』ことが大事で、分かち合うための場をどう作るかという時に『信頼』がキーワードになるというお話がありました。



<第3分科会> 「行政や他機関との連携・そして広がる拠点の輪」

【コーディネーター】 草薙めぐみさん NPO 法人子育てネットくすくす 理事長

【事例報告】 内田弘子さん 善通寺市健康福祉部子ども課 課長補佐

【事例報告】 松崎美穂子さん NPO 法人子育て支援ネットワークとくしま理事長



草薙めぐみさん 内田弘子さん 松崎美穂子さん

前半は他機関との連携や協働の事例報告をお聞きし、後半のグループワークでは自分たちの地域資源とその連携ときっかけについて話し合いました。

内田弘子さんからは、善通寺市での連携事例である「子ども・家庭支援センター」と母子保健の取り組みについて報告いただき、松崎美穂子さんからは、行政との連携による事業、企業・大学等との連携による子育て支援について報告いただきました。どちらの事例も、信頼関係を築き、お互いの役割を明確化しながら同じ目的達成のために進んでいくことが大切だということがわかりました。

そして、グループワークでは最初に地域の資源にどのようなものがあるのかを書き出し、行政や企業、学校だけでなく、地域の人も大切な資源であるという意見が出されました。次にその地域資源とどのような関係で繋がっているのか、またその繋がったきっかけが何だったのかについて意見を出し合いました。その中で自分たちのバックグラウンドを活かしたノウハウで繋がったものや、団体の広報誌などの配布による地道な働きかけによって繋がったものが特に印象に残りました。



最後にコーディネーターの草薙さんから、自分だけの問題ではなく、社会の問題であると認識したところから自分の力になって今の活動や連携ができあがっている。目の前の家族・家庭のためにしてあげているのではなく、一緒に自分も成長させてもらっているという気持ちで取り組むことが大切である。日常的な関わりの積み重ねが関係性を作り、地域力を上げる。そのことが子育て家庭、地域全体の幸福向上につながっていくというお話をいただきました。

■プログラム5 全体会（分科会総括・ディスカッション）

【コーディネーター】中橋恵美子さん NPO 法人わははネット 理事長

第1分科会 橋本真紀さん 関西学院大学 准教授

第2分科会 常田美穂さん 香川子ども子育て研究所 所長

第3分科会 草薙めぐみさん NPO 法人子育てネットくすくす 理事長



○第1分科会（橋本さんより）

ガイドラインを基に枠組みを確認し、「場を作る」「温かく迎え入れる」「身近な相談相手」「利用者同士をつなげる」「利用者と地域をつなぐ」「支援者が地域に向かう」のグループに分かれて支援者の役割について具体的にディスカッションした内容について、スタッフがどうすれば良いのかいろいろな知恵が詰まったものができあがったという報告をしていただきました。

○第2分科会（常田さんより）

こぶし今里保育園の増田さんからは、「居心地のいい」をどのように作っていくのかという中で、お母さん達の持っている力を尊敬していくことで支援者も親から学んでいく、というお話がありました。NPO 法人わははネットの太田さんの報告からは、「みんなで」居心地のいい空間を作っていく視点を提供していただきました。グループワークでは、それぞれの置かれている環境は違うが、ともに作り上げていく・親自身が成長できる場の提供について、自分達の手持ちの資源で何ができるかを改めて考えたという報告をいただきました。

○第3分科会（草薙さんより）

善通寺市の内田さんよりの母子保健事業や子ども家庭支援センターでの連携について、またNPO法人子育て支援ネットワークとくしまの松崎さんより企業と行った子育てフェスティバルや大学との連携についてお話がありました。

「事前に日常的にケースを共有したり情報を確認したりする連携は、それぞれの経験の力が付いてきて地域の力が高まっていく。それはすべて子育て家庭の利につながっていく。それが最終ゴールであるということが共感できた。それぞれの特性・強みが違う中、役割分担できる関係性を作っていくことが子育て家庭のために取り組んでいくことであるというまとめになった。」との報告をいただきました。

その後、各分科会の中で心に残ったキーワードを発表していただき、中橋さんより「拠点事業の4つの基本事業の中の講習の開催についても、スタッフ間でミーティングして組み立てていくことが、より居心地のよい場を作る過程なのではないかと感じた。今回の研修内容を持ち帰って、内部研修などで学びを共有し振り返ってもらい拠点や地域に広げていってもらいたい。」という話で締めくくられました。